１年○組　国語科学習授業案

１　題材名　「ことばであそぼう」　――「ひ」の授業　――

２　題材について

本題材は、ことば遊びをしながら、文字やことばに慣れ親しむためのものである。しかし、就学前の６年間では子どもたちの育った環境、言語環境、活動体験はさまざまである。そんなさまざまなくらしの中で子どもたちは「ことば」を学び、生活経験を重ねていく。その生活経験こそが子どもたちの生きる力へとつながっていく。自分の要求を出したり、相手の気持ちを考えたり、身近にあるものや道具を使って遊んできたりしてきたことは、入学したばかりの教室の中でのおしゃべりや絵本読み、声の大きさ、聞くこと、話すこと、書く(描く)こと、はさみの使い方、紙の折り方などにつながる。

このような生きる力のもとが必ずしもすべての子どもたちに保障されているわけではない。からだ（表情や心も含む）のしなやかさ、手のしなやかさが保障されなかった子どももいる。すべての子どもが同じスタートラインに立っているわけではない。だからこそ、入学までに通過してきたであろう道筋をもう一度、共にくぐらせたい。そんな思いから入門期の読み書きの指導はこまやかに教材を用意しながら体と心をひらくことを基本にして、できるかぎり子どもたちのくらしと重ねながらすすめていく。

授業をすすめていく上で以下のような子どもたちが課題を提起してくれる。

～　以下　略　～

３　題材の目標

ことば遊びを楽しみながら、ひらがなを読んだり書いたりする。

４　単元計画と評価の基準

次	時	学習課題	学習内容	評価の基準
一	2	しりとりの遊びをする。 ことばをひらがなで書く。	・しりとりの遊び方を知る。 ・「ひ」ではじまることばがいろいろあることを知る。	○しりとり遊びの仕方がわかる。 ○ひらがなの中のある文字がつくことばをいろいろ考える。 ○パズルに当てはまることばを考え、ひらがなを書く。
二	1	ことばのパズルの空いているところに文字を当てはめる。	・ことばのパズルをする。	

５　本時の学習

（１）　本時の目標

・しりとりの方法がわかり、遊ぶ。
・「ひ」のつくことばを集める。
・ひらがなの「ひ」を正しく書く。

（２）　展　開

学　習　活　動	時間	教　師　の　支　援	評　価
１　「こぶた、たぬき、きつね、ねこ」を歌い、しりとりのやりかたに気づく。	５	・板書をし、しりとりのやり方がわかるようにする。	
２　しりとり遊びをする。 教師―児童 児童―児童	１０	・教師と児童とが交互にやって、やり方がわかったところで児童同士の遊びにつなぐ。 ・「はっきり話そう。」 ・「わからないときはいっしょに考えよう。」 ・ひらがなの特徴である音をあらわすことを感じ取らせる。	しりとり遊びをしているか。
３　「あさひ」の出題から「ひ」のつくことばをあつめる。	５	・「ひ」から始まることばばかりでなく、間に「ひ」が入ることばにも発展する。 ・大きいひもでやって見せる。 ・説明をきちんと聞かせる。	「ひ」のつくことばを考えているか。
４　本時はひもの「ひ」で学習することを知らせ、ひもの結び方の練習をする。	１０	・子ども同士で教えあうことも大事なことを伝える。 ・字形に注意させる。 ・形ができたら、なぞらせる。	
５　ひもで「ひ」の形を作る。	５	・曲がりや折り返しに特に気をつけさせる	正しく書けているか。
６　「ひ」を書いて練習する。	１０		